

## 2022 年度第 1 回 特定非営利活動法人日本火山学会 理事会 議事録

開催日時および開催場所

2022 年 5 月 13 日 9 時 00 分～ 12 時 40 分

Zoom によるリモート会議

出席者：青木陽介，青山 裕，市原美恵，石峯康浩，上田英樹，大野希一，奥村 聡，下司信夫，高木朗充，千葉達朗，東宮昭彦，中道治久，西村太志，宮縁育夫

議案 1 財務委員会から提案の 2021 年度決算案について、委員会報告の通り理事会として承認し、総会に提案することを承認した。

議案 2 財務委員会から提案の 2022 年度予算案について、委員会提案の通り理事会として承認し、総会に提案することを承認した。

議案 3 各賞選考委員会から 2022 年度日本火山学会各賞受賞選考について、選考経緯および結果の報告があり、理事会として承認した。

議案 4 各賞選考委員会設置規定について、本会以外の表彰に関わる推薦を任務に加える修正案が提示され、理事会として承認した。また、論文賞の対象期間の修正に関する表彰規程の変更案が各賞選考委員会から提示されたが、議論の結果引き続き検討することとなった。

議案 5 2022 年度役員幹事として、風早康平会員・武尾実会員を通常総会に提案することを理事会として承認した。

議案 6 2023 年の秋季大会について、京都大学防災研究所を LOC の主体として、鹿児島市で 2023 年 10 月 18-20 日の日程で開催する計画案を理事会として承認した。

以下、議事および報告事項に関する議論の詳細

庶務委員会関連

次期役員体制について

2022 年度役員選挙が実施され、通常総会において選挙管理委員会から選挙結果報告がなされ、選挙結果の承認後に選挙管理委員会の解散を議決する予定であることが報告された。

2022 年度役員（監事）として、風早康平会員・武尾実会員を通常総会に提案することを提案し、理事会として承認した。

会員動向について、入退会数などの現状を報告した（別添資料 1）。

会員名簿について、現状を報告した。現在データの更新を会員にむけてお願いしているところで、今月中のデータ集約を予定している。Google フォームを用いた集約に大きな問題は出ていない。一部はメールなどで集約している。

大会委員会関連

大会委員会より、秋季大会準備状況の報告を行った。

秋季大会会場の予約の手続き上の問題により、10月12-14日に学術講演会日程を変更した。会場については変更なし。予稿締め切りは9月1日を予定している。学術講演会はハイブリットで行う予定であるが、感染状況に応じてオンライン方式への変更も考えている。開催方式は、会場のキャンセル料の期日などを勘案して最終判断する。発表は現地からのみとするか、オンライン混合による発表にするかは現時点では未定。ポスター会場はスペース過密対策の問題から、対面のポスター数を制限して翌週のオンラインでの発表を併用する予定である。学生優秀発表賞の審査対象のポスターはすべて対面とする方針だが各賞選考委員会などと協議が必要である。オンラインのポスターセッションは会場通信回線の容量等などの問題から、翌週に実施する予定。交流会も現在は対面での実施を予定している。交流会の会場等は未定である。一般公開行事、現地討論会、日程内容等は調整中である。

参加費の増額について、大会委員会から説明がなされた。学術講演会をハイブリット形式で実施するための会場費および通信費、業者作業委託費が増額するため、参加費を増額したい。昨年の倍額を予定している。参加費収入は昨年と同じ参加人数を見込んで予算に想定している。参加費はオンライン・対面でも同額を予定している。これに対し、出席理事から、増額はやむを得ないと判断しているが、想定収支について会員に開示し参加費の増額について理解を得る努力が必要との意見がだされた。静岡東部コンベンションビューローから補助金を受けられる予定。補助金は宿泊者の人数に応じて変動する。

日程の変更の経緯は、会場として予定していた三島市民会館の予約に問題が発生したためである。三島市民会館の予約手続きを今年の春～夏に開始していた。しかし、三島市民会館の正規の予約受付が1年前からで、それ以前に三島市を通して仮予約手続きを始めていた火山学会の予約は内諾状態のままであった。三島市から市民会館への連絡・確認の不手際が重なって火山学会の予定日に別予約が入ってしまった。今後、公共施設等を使うときには年度替わりのタイミングで確認をしてゆくことが必要であり、予約方法などについてLOCなどとやり取りで確認を行うように来年度以降に申し送りする。

学術講演会の運用について、ハイブリット開催による技術的なトラブルへの対応を議論した。通信問題などの問題で発表できなかった場合などの対応方針を決めておいて、会員と合意を取っておく必要があるだろう。参加費の値上げを予定しているので、丁寧な説明が必要である。ハイブリットの時のマイク・オーディオ関係は専門業者に委託して質を保持する。今回の委託業者は、現地での技術的トラブルへの対応も含めて料金に含まれているので、当日追加の作業が発生しても費用の問題はない。会場での予行練習や確認が必要。JpGUなどを参考に事前の準備を進める。

会場のキャパシティについて、感染状況から入場を制限するような事態を想定して対応を検討する。参加登録時に現地参加者を登録することにより現地参加者数を把握できるような方法を考える。大ホールは1200人の収容定員なので、例年の参加者数であれば現地参加者が会場の定員に近くなることはない。一方、三島コンベンションビューローからの補

助金は現地宿泊者数で算定されるため、現地参加が増えることも必要。現地参加の促進も考える必要がある。現地参加・オンライン参加の参加費の差別化は切り分け・手続きなどが難しい。

ポスター会場は過密になりがちなので、会場でのポスター数を制限する。何らかの基準で選別する。申し込む段階で、現地ポスター、オンラインポスター、口頭発表を選べるようにする予定。学生優秀発表賞の審査方法などについても関連するので、ポスター発表の方法などについて各賞選考委員とも協議したい。オンラインの場合、ポスター発表と口頭発表の違いが次第にあいまいになりつつあるので、今後発表形式などについても検討する必要がある。

公開講座などについて、今年度は科研費が落選したため、費用面で工夫が必要である。科研費の当落がわかる前に講師などを決定・手配していたので大幅な計画変更は難しい。こども実験についても学術講演会と続きの日程で実施できれば予算はかなり縮減できるのではないかとの意見があり、開催方式などについて大会委員会や学校教育委員会など関係者で引き続き協議することとなった。

来年（2023年）の秋季大会について、大会委員会から経緯の説明を行った。実施計画案の公募に対して1件の応募があった。LOCは京都大学防災研究所を中心として編成し、学術講演会の会場は鹿児島市のかごしま県民交流センター、日程は2023年10月18-20日とする実施計画について報告があり、理事会として開催計画について承認した（別添資料2）。

## 財務関係関連

### 2021年度決算案

2021年度決算案（別添資料3）の概要を財務委員会が説明した。赤字額は約46万円であり、例年並みである。例外的に2020年度はコロナ禍のため事業が中止になったため支出が大幅に減り黒字となったが、2021年度は各種行事等を、感染対策等を工夫しながら実施できたので、それらにかかわる支出が増えて全体として赤字となった。秋季大会参加費、火山別刷り売り上げなどの増加により経常収入は増額した。とくに2021年度は火山特集号が充実し多数の論文が掲載されたため、超過ページ・色刷り料金を含むそれらの別刷り販売収入が増えた。支出額はほぼ例年並みである。

次期繰越収支差額は約1千万円。学会が持つ資産のうち固定資産等を除いた、自由に使える資産に相当し、これがゼロになれば財政的に破綻する。ACV基金を除いた実質の繰越額は前年比55万円減。

以上の説明に基づき、財務委員会から提案の2021年度決算案について、委員会報告の通り理事会として承認し、総会に提案することを承認した。

### 2022年度予算案

2022年度予算案（別添資料4）の概要を財務委員会が説明した。秋季大会のハイブリッド

化に対応した参加費の値上げや現地討論会・交流会参加費増により収入が約 300 万円増を見込んでいる。一方、公開講座講演会用に例年 100 万円前後得ていた科研費が不採択となりその分減収となる。支出は項目ごとの余裕をみているので、見かけ上大幅な赤字予算になっているが、実際にはここまでの赤字にはならない想定。国際奨励賞は、海外の学会でコンビナーをするものに旅費を支出する名目で毎年計上しているが、実質機能していないので見直してもよいのではないかと思われる。本賞は表彰規程にも規定されていないので制度上も問題がある。

予算の組み方に関して、他の委員会との横断的な見直しを実施したほうが良い、複数の委員会にまたがって予算が組まれていたりする事例がある、との意見が出された。

また、一般講演行事など、科研費依存の計画は再検討する必要があるとの意見が出された。科研費の当落に応じたプランを考える必要があるだろう。落選したら経費削減のため現地開催でなくオンラインにすることも考えられるが、今年度は今から切り替えるのは困難との意見があり、それに対してすでに予約している会場のキャンセル料の多寡が問題になるとの見解が示された。一般講演行事などもテーマ設定なども工夫する必要があるので今後継続して検討する。今年度については予定通り実施する方向で検討する。

以上の説明に基づき、財務委員会から提案の 2022 年度予算案について、委員会提案の通り理事会として承認し、総会に提案することを承認した。

#### 各賞選考委員会関連

2022 年度日本火山学会各賞受賞選考結果について、以下のように各賞選考委員会における選考経緯および結果の報告があり、理事会として承認した（別添資料 5）。

選考結果は以下の通り。日本火山学会賞 1 件（篠原宏志会員）、同研究奨励賞 1 件（松本恵子会員）、同論文賞 2 件（Ichiki et al., 2021, Terada et al., 2021、ともに EPS）同学生優秀論文賞 1 件（Muramatsu et al., 2022）。詳細については別添資料。

同普及啓発賞・同優秀学術賞について応募なし。応募数は例年に比べて少なかった。

委員会からの説明に基づき、本会外部から依頼される受賞者の推薦に関わる任務を加える本委員会設置規程の修正（別添資料 6）について理事会として承認した。また、表彰規程の修正案について、学生優秀論文賞の審査対象期間について議論した結果、本件については引き続き委員会で検討することとした。また、委員会の内規の見直しについて報告があった。

#### 編集委員会

「火山」編集状況について報告した。現在 67 巻 2 号の編集作業中で、10 編の論文が掲載予定。特集号論文 3 本。昨年後半から通常号への投稿が減少気味である。

編集委員会としては、火山掲載論文に関連する電子付録（サブリメンタリーデータなど）を公開できる方向を検討したい。J-Stage で掲載することには費用は生じないが、創文印刷で

の手続き等に費用が掛かる。1 篇当たりの手数料は数千円程度と見込まれる。  
引き続き編集委員会で検討して、規約など具体的な案をまとめる。

#### 他学会委員会

EPS の投稿状況などについて報告した。

2021 年度に発表された論文の関連学会別内訳が示され、火山学会が関連学会とされた論文は 19 件であった。著者が選択した関連学会なので、学会員が著者である火山関連の論文であっても別学会が関連学会として選ばれている例もある。

EPS の赤字運営は解消し、かつ最近の円高による APC 収入が増加したため、今年度の予算には余裕がある。

EPS の投稿料について、ウェブサイト上での表現を変更した。APC はこれまで 1200 ユーロとされ、日本居住者はそれに相当する額を 1475 ドル建てとし、さらにそれを円換算して請求されていたが、EPS のウェブサイトの記述を変更し、ドル建てで 1475 ドルと表示した。投稿料は国毎に通貨が決められており、日本は米ドル建てで計算する。

#### 学校教育委員会

委員会委員の体制案・サースクール・公開講座について報告した。

今年度のこどもサースクールについて、8 月 17-18 日で予定していることが報告された。こどもサースクールに対する追加支出について、開催 3 学会で対応が分かれた。地質学会では予算の積算が認められず赤字が生じたときに追加支出を検討する旨の報告があった。サースクールの活動の振り返りについて、今年度の J p G U でサースクールセッションを開催する。

公開講座の科研費が不採択となったため必要経費について学会からの支出となる。通常活動に関する旅費を圧縮して実施する予定。

一家に一枚ポスターの企画について、応募準備を進めている。

次回の科研費募集について学振側の方針の変更に伴う対策を検討。ときめきサイエンス、公開講座促進費などやり方を検討する必要があることが報告された。

#### 火山防災委員会

火山防災関係の直近の主な計画について報告した。

火山防災セッションを J p G U で開催する。パブリックセッションで吉本委員が話題提供を行う。

防災シンポジウムを昨年度同様にオンラインで実施予定。平日の日中に変更して実施。海底火山の火山防災についての話題で実施。

防災シンポジウムで使用する Zoom のライセンス料を今年度予算に積算した。学会全体でアカウントを使用することとし、費用および管理などは庶務委員会と事務局であつかう。

## 国際委員会

IAVCEI の役員選挙対応について方針を報告した。

来年 IAVCEI の役員選挙があるので、日本からの候補者について委員会で検討を開始する

## 事業委員会

オリジナルノートの破損対応について報告した。オリジナルノートの製本不良と思われるものが多数あるということで、作成した印刷所と協議して対応した。学会が保有している残りの部数について、破損部を含む上下 1 mm を裁断することで整える対応を取った。背表紙の素材がやや弱い紙質で輸送中に起きやすいので、今後増産する場合には素材等の変更も検討課題とする。

事業委員会で企画中の YouTube 配信について、コンテンツは積みつつある。準備をすすめている。

## 広報委員会

ホームページ等を用いた広報活動について報告した。

ツイッター・フェイスブックを用いた情報発信を進めている。ツイッターでは火山掲載論文紹介などを進めている、フェイスブックは火山防災国際ワークショップ、各賞受賞など紹介中。ホームページに掲載中の「ルポ」について、取材中である。

学会のホームページの「資料集」の内容を整理・統合した。2004 年以前のはリンクを作成した。

安全に火山を楽しむために冊子の作業は中断している。

秋季大会の一般講演会について、広報委員会としてはオンラインのサポートについては継続性も生まれるので、委員会としては準備を進めたい。

ホームページの資料の整理。防災委員会での情報発信についてページを作りたいと考えている。一般向けの情報発信。ウェブページのサイトの一部に加える方向で、広報委員会で検討する。

## ジオパーク支援委員会

ジオパーク活動に関する学会としての支援活動について報告した。

南紀熊野ジオパークの国内推薦審査を実施。日本ジオパーク学術支援連合のレビューアーの推薦を行った。

JpGU でのジオパークセッションを開催する。

今年度の日本ジオパークの再審査状況について報告した。火山対象とする 4 地域が対象となっている。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年5月31日

議長 西村 太志  
議事録署名人 高木朗充, 千葉達朗

別添資料1：入退会資料

別添資料2：2023年度秋季大会開催計画案

別添資料3：2021年度決算案

別添資料4：2022年度予算案

別添資料5：2022年度各賞選考結果

別添資料6：各賞選考委員会設置規程の修正

## 別添資料 1 入退会資料

特定非営利活動法人 日本火山学会（2022年5月）入退会・報告

〈会員関係〉

### 1. 入退会

2022年度・入会（承認済み） 個人：7名維持会員0名，学術会員5名，一般会員2名

2022年度・再入会（承認済）個人：2名維持会員0名，学術会員2名，一般会員0名

2021年度退会 個人：23名維持会員7名，学術会員15名，一般会員1名

2021年度・学生会員期間満了退会：31名維持会員1名，学術会員28名，一般会員：2名

2022年度・除名対象 個人：12名維持会員2名，学術会員8名，一般会員2名

### 2. 会員数

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2021年度臨時総会時（個人）	281	669	93	1043
2021年度臨時総会時（団体）	2	0	18	20
名誉会員	10	0	0	10
2021年度・入会（秋季大会後）	0	4	0	4
2021年度末・合計	293	673	111	1077
2022年度・入会・承認済（個人）	0	5	2	7
2022年度・再入会・承認済（個人）	0	2	0	2
2022年度・入会（団体）	0	0	0	0
2021年度・会員種別変更（個人）	-2/1	-1	2	0
2021年度・退会（個人）	7	15	1	23
2021年度・学生会員期間満了退会	1	28	2	31
逝去	1	3	0	4
2022年度通常総会時（個人）・合計	271	633	94	998
2022年度通常総会時（団体）・合計	2	0	18	20
名誉会員	10	0	0	10



2022 年度臨時総会時・合計	283	633	112	1028
2022 年度・除名対象（個人）	2	8	2	12

2022 年度・通常総会時維持会員（個人）：一般 271 名 学生 0 名

学会員 ：一般 582 名 学生 51 名

一般会員（個人）：一般 93 名 学生 1 名

2. 2022 年度・除名対象：12 名

※6 月下旬に除名警告書を発送後，8 月末日までに会費の支払や会員資格継続希望の連絡がなければ除名。

## 別添資料2 2023年度秋季大会開催計画案

2021年12月から2022年2月にかけて公募を行い、1件の応募があった。応募書類を審査した結果、秋季大会開催に問題がないという結論に至った。

### 開催時期（予定）

学術講演会：2023年10月18日（水）-20日（金）

現地討論会：2023年10月21日（土）

一般講演会・公開講座：未定

### 開催場所（予定）

学術講演会：かごしま県民交流センター

現地討論会：桜島火山

一般講演会：未定

別添資料 3 2021 年度決算案

2021 年度決算 (案)

ver. 220504b

勘定科目名称	2021 予算	2021 実績	実績差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,735,000	2,810,000	75,000	
学会会員会費	4,640,000	4,800,000	160,000	
一般会員会費	925,000	931,000	6,000	
【会費収入】 合計	8,300,000	8,541,000	241,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】 合計	0	0	0	
【補助金等収入】				
文部科学省助成金収入	700,000	366,195	-333,805	
【補助金等収入】 合計	700,000	366,195	-333,805	
【事業収入】				
火山定期購読料	700,000	814,000	114,000	@11000×74
火山別刷販売金	200,000	1,795,938	1,595,938	特集号効果
予稿集販売金	200,000	102,814	-97,186	オンライン開催
書籍等販売金	300,000	50,414	-249,586	学会オリジナルノート販売
大会参加費等	1,360,000	1,837,000	477,000	オンライン開催
【事業収入】 合計	2,760,000	4,600,166	1,840,166	
【その他収入】				
受取 利息	300	137	-163	
雑 収 入	200,000	142,835	-57,165	著作権使用料等
【その他収入】 合計	200,300	142,972	-57,328	
【経常収入】 合計	11,960,300	13,650,333	1,690,033	
【経常支出】				
【事業費】				
火山学に関する定期大会等の開催費予稿集印				
刷費	200,000	195,855	-4,145	現地開催取りやめ（オンライン開催）のため。
予稿集発送費	50,000	17,574	-32,426	同
臨時雇賃金	300,000	44,275	-255,725	同
会場使用料・委託費	1,650,000	1,146,640	-503,360	同
旅費謝金	360,000	0	-360,000	同
通信運搬費	300,000	68,246	-231,754	同
機材借料	100,000	0	-100,000	同
現地討論会・交流会費	500,000	0	-500,000	現地討論会・交流会は中止。
雑費	800,000	139,357	-660,643	現地開催取りやめ（オンライン開催）のため。
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	4,260,000	1,611,947	-	
			2,648,053	
会誌機関紙研究報告書等発行費火山印刷				
費	3,760,000	3,509,171	-250,829	
火山発送費	500,000	491,727	-8,273	
別刷印刷費	200,000	142,285	-57,715	
別刷発送費	30,000	21,300	-8,700	

通信運搬費	20,000	12,544	-7,456	
火山雑費	450,000	230,670	-219,330	
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	4,960,000	4,407,697	-552,303	
<hr/>				
公開講座講演会等開催費臨時雇賃金	50,000	9,600	-40,400	現地開催取りやめ（オンライン開催）のため。
旅費謝金	300,000	0	-300,000	同
通信運搬費	100,000	98,996	-1,004	
印刷費	250,000	60,573	-189,427	現地開催取りやめ（オンライン開催）のため。
雑費	400,000	201,048	-198,952	同
公開講座講演会等開催費 合計	1,100,000	370,217	-729,783	
<hr/>				
火山学の普及啓発に関する事業費臨時雇賃金	8,000	0	-8,000	現地開催取りやめ（オンライン開催）のため。
旅費謝金	1,160,000	23,218	-	同
			1,136,782	
通信運搬費	80,000	3,024	-76,976	同
印刷費	583,000	0	-583,000	同
雑費	214,000	385	-213,615	同
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	2,045,000	26,627	-	
			2,018,373	
<hr/>				
火山学に関する研究奨励表彰費その他印刷費	50,000	14,570	-35,430	
奨励費	400,000	0	-400,000	国際奨励賞なし
雑費	50,000	30,307	-19,693	
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	500,000	44,877	-455,123	
<hr/>				
他団体援助金支出他団体援助金支出	800,000	400,000	-400,000	EPS と地学五輪は例年通り支出。サマスク支出なし。
他団体援助金支出 合計	800,000	400,000	-400,000	

7

ver. 220504b

## 2021 年度決算（案）

勘定科目名称	2021 予算	2021 実績	実績差異	備考
【期首・期末棚卸】売上原価	0	-120,103	-120,103	期首・期末棚卸高の差。「火山」在庫1年分増。
【期首・期末棚卸】 合計	0	-120,103	-120,103	
事業費 計	13,665,000	6,741,262	-6,923,738	-
	3,900,000		119,528	
【管理費】				
給料手当		3,780,472		
法定福利費	650,000	629,652	-20,348	
福利厚生費	10,000	7,160	-2,840	
旅費交通費	820,000	211,980	-608,020	理事会オンライン化等
通信運搬費	780,000	459,274	-320,726	
消耗品費	210,000	94,160	-115,840	
光熱水料費	120,000	89,910	-30,090	
賃借料	340,000	323,196	-16,804	
租税公課	150,000	135,706	-14,294	
支払手数料	840,000	814,512	-25,488	会計事務所
減価償却費	169,553	169,553	0	

徴収不能額	0	227,000	227,000	滞納除名者の未収会費
保険料	5,678	5,678	0	火災保険料1年分
雑費	760,000	420,873	-339,127	HP改修ほか.
管理費 計	8,755,231	7,369,126	-	
			1,386,105	

【経常支出】 合計	22,420,231	14,110,388	-8,309,843	
当期経常増減額	-	-460,055	9,999,876	46万円の赤字 (例年並み)
	10,459,931			

《その他資金の部》

【その他資金収入の部】				
【その他資金収入の部】 合計	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
【その他資金支出の部】 合計	0	0	0	

《正味財産増減の部》 当期正味財産	-			
増減額	10,459,931	-460,055	9,999,876	
前期繰越正味財産額	33,125,496	33,125,496	0	
次期繰越正味財産額	22,665,565	32,665,441	9,999,876	年度末における正味財産 (純資産)

固定資産額		21,444,235		
期末棚卸高		1,163,076		
前払費用		8,517		
前期繰越収支差額		10,604,540		
次期繰越収支差額		10,049,613	-554,927	内 ACV (IAVCEI 寄付) 残金 31 万

## 監 査 報 告

特定非営利活動法人日本火山学会定款第6章第49条により、  
2021年度の事業・会計収支状況、預金・為替等の帳簿を監査した結  
果、適正に執行されていることを認めます。

2022年 4月28日

特定非営利活動法人日本火山学会 会計監事

風早康平



武尾実



## 別添資料 4 2022 年度予算案

2022 年度予算 (案)

ver. 220510b

勘定科目名称	2021 実績	2022 予算	予算額差異	備考
《経常増減の部》				
【経常収入】				
【会費収入】				
維持会員会費	2,810,000	2,705,000	-105,000	2022/4/8 時点での会員数
学会会員会費	4,800,000	4,564,000	-236,000	2022/4/8 時点での会員数
一般会員会費	931,000	910,000	-21,000	2022/4/8 時点での会員数
【会費収入】 合計	8,541,000	8,179,000	-362,000	
【寄付金収入】				
【寄付金収入】 合計	0	0	0	
【補助金等収入】 文部科学省助成金収入静岡 県東部地域コンベンションビューロー補助 金				
		0	-366,195	2022 年度は不採択
	366,195	300,000	300,000	
	0			
【補助金等収入】 合計	366,195	300,000	-66,195	
【事業収入】				
火山定期購読料	814,000	814,000	0	例年実績
火山別刷販売金	1,795,938	400,000	-1,395,938	例年実績 (2021 年度は特集号効果が大)
予稿集販売金	102,814	100,000	-2,814	例年実績
書籍等販売金	50,414	100,000	49,586	例年実績
大会参加費等	1,837,000	5,270,000	3,433,000	参加費(値上げ)301+団体展示 26 +現地討論会 120
【事業収入】 合計	4,600,166	6,684,000	2,083,834	+交流会 80 去年予算比 +392
【その他収入】				
受取 利息	137	200	63	
雑 収 入	142,835	150,000	7,165	著作権料など, 例年実績
【その他収入】 合計	142,972	150,200	7,228	
【経常収入】 合計	13,650,333	15,313,200	1,662,867	うち現地討論 120・交流 80
	195,855		4,145	
【経常支出】				
【事業費】				
火山学に関する定期大会等の開催費予稿集印刷 費				
		200,000		
予稿集発送費	17,574	20,000	2,426	
臨時雇賃金会場使用料・委 託費旅費謝金	44,275	300,000	255,725	
	1,146,640			
	0	2,430,000	1,283,360	ハイブリッド開催: 会場使用 83+ハイブリッド委 託 160
		355,000	355,000	大会 30, 庶務 5.5
通信運搬費	68,246	100,000	31,754	
機材借料	0	50,000	50,000	
現地討論会・交流会費	0	2,280,000	2,280,000	現地討論 3 万×20 人×2 回, 交流 6000 円×180 人
雑費	139,357	320,000	180,643	消耗品, クレジット決済, 庶務 7, 余裕 10
火山学に関する定期大会等の開催費 合計	1,611,947	6,055,000	4,443,053	うち現地討論 120・交流 108, 余裕 10; 去年予算 比+176
会誌機関紙研究報告書等発行費火山印刷 費	3,509,171	3,920,000	410,829	火山 276 (69×4)、カラー負担 66, 余裕 50; 紙 代・印刷費の値上がり

火山発送費	491,727	550,000	58,273	
別刷印刷費	142,285	250,000	107,715	
別刷発送費	21,300	30,000	8,700	
通信運搬費	12,544	20,000	7,456	
火山雑費	230,670	450,000	219,330	J-STAGE 関係：火山 20 予稿集 15 余裕 10
会誌機関紙研究報告書等発行費 合計	4,407,697	5,220,000	812,303	余裕 60
公開講座講演会等開催費臨時雇賃金	9,600	100,000	90,400	
旅費謝金	0	700,000	700,000	
通信運搬費	98,996	200,000	101,004	
印刷費	60,573	250,000	189,427	
雑費公開講座講演会等開催費 合計	201,048	200,000	-1,048	
火山学の普及啓発に関する事業費臨時雇賃金	0	1,450,000	1,079,783	去年オンライン，今年現地； 科研費が今年は不採択
旅費謝金	23,218	520,000	496,782	防災 0.8 国際 0 (ACV 無)，学校 10，防災 10，将来 20，GP5，事業 7
通信運搬費	3,024	60,000	56,976	防災 2、事業 4
印刷費	0	330,000	330,000	防災（シンポ 8、活火山登山パンフ 25）
雑費	385	120,000	119,615	国際 0、学校 2、事業 7.6、防災 0.1、余裕 2.3
火山学の普及啓発に関する事業費 合計	26,627	1,038,000	1,011,373	余裕 2.3、将来 20
火山学に関する研究奨励表彰費その他印刷費奨励費雑費	14,570	50,000	35,430	各賞 5 (受賞 8 件)
	0	400,000	400,000	国際 20x2； 10 年前から使用実績なし
	30,307	50,000	19,693	各賞 5
火山学に関する研究奨励表彰費 合計	44,877	500,000	455,123	
他団体援助金支出他団体援助金支出	400,000	700,000	300,000	EPS20，地学五輪 20，サマスク 23.6，余裕 6.4
他団体援助金支出 合計	400,000	700,000	300,000	余裕 6.4

11

ver. 220510b

## 2022 年度予算（案）

勘定科目名称	2021 実績	2022 予算	予算額差異	備考
【期首・期末棚卸】売上原価	-120,103	0	120,103	
【期首・期末棚卸】 合計	-120,103	0	120,103	
事業費 計	6,741,262	14,963,000	8,221,738	余裕 78.7 119,528
【管理費】				
給料手当	3,780,472	3,900,000		
法定福利費	629,652	650,000	20,348	社保
福利厚生費	7,160	10,000	2,840	健診
旅費交通費	211,980	220,000	8,020	通勤費 21，理事会旅費 0、余裕 1
通信運搬費	459,274	450,000	-9,274	サーバ 2、電話 10、理事選挙 4.2、名簿 1、送料 11、富士火山送料 10、余裕 7
消耗品費	94,160	210,000	115,840	コピー機トナー等
光熱水料費	89,910	120,000	30,090	
賃借料	323,196	340,000	16,804	マンション管理、コピー機リース、他
租税公課	135,706	150,000	14,294	



支払手数料	814,512	840,000	25,488	会計事務所, 振込手数料
減価償却費	169,553	169,553	0	定額
徴収不能額	227,000	0	-227,000	
保険料	5,678	5,678	0	定額
雑費	420,873	600,000	179,127	HP 改修 20, 事務局 18.5(会費, 封筒, ソフト等)、 名簿管理費 15.4、余裕 6.1 余裕 14.1
管理費 計	7,369,126	7,665,231	296,105	

【経常支出】 合計	14,110,388	22,628,231	8,517,843	余裕 92.8 (去年より余裕を圧縮; 去年は余裕 267)
-----------	------------	------------	-----------	--------------------------------

当期経常増減額	-460,055	-7,315,031	-6,854,976	実際はここまではならないだろうが、今期は 200 万円程度赤字の可能性
---------	----------	------------	------------	--

《その他資金の部》

【その他資金収入の部】				
【その他資金収入の部】 合計	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
【その他資金支出の部】 合計	0	0	0	

《正味財産増減の部》 当期正味財産増減額	-460,055	-7,315,031	-6,854,976	
前期繰越正味財産額	33,125,496	32,665,441	-460,055	
次期繰越正味財産額	32,665,441	25,350,410	-7,315,031	前期繰越正味財産額+当期正味財産増減額
固定資産額	21,444,235	21,424,682	-19,553	前期額-減価償却+退職引当金支出 (15 万)
期末棚卸高	1,163,076	1,163,076	0	去年度実績
前払費用	8,517	2,839	-5,678	保険料未経過分
前期繰越収支差額	10,604,540	10,049,613	-554,927	
次期繰越収支差額	10,049,613	2,759,813	-7,289,800	次期繰越正味財産-固定資産-期末棚卸-前払 費

## 別添資料 5 2022 年度各賞選考結果

### 2022 年度日本火山学会各賞の授賞選考結果

各賞選考委員会 高木

日本火山学会表彰規等の規約に基づき、2022 年度の日本火山学会各賞の授賞者を選考した。選考結果を下記のとおり報告するので検討いただきたい。

選考期間： 2022 年 3 月 7 日～4 月 28 日

委員； 高木、及川、小園、角野、橋本、伴、前野、山里

#### ■日本火山学会賞（応募：1 件）

被推薦者： 篠原宏志

被推薦者所属： 産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門

自薦／他薦： 他薦

推薦者： 大場 武、森 俊哉、風早竜之介、森田雅明

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

マagma揮発性物質の観測・実験・モデリングに基づく火山現象解明への貢献

授賞理由：

篠原氏は、高温の火山ガスに含まれる塩化水素濃度を決める要因を解明するためメルトと流体相間の塩化物分配実験やモデル化を行い、塩化物の存在下では流体相の HCl/NaCl は圧力が低いほど上昇することを明らかにするなど、火山ガス研究分野で国内外における火山学への多大なる貢献があった。その他にも、薩摩硫黄島での観測により着想を得た火道内対流モデルの提案等、独創的な研究成果による火山学への寄与にとどまらず、モニタリングの重要性をふまえた火山ガス観測手法の研究開発も行う等、国際的にも評価される火山ガス研究の第一人者であり、国内外を問わず本研究分野を牽引してきた。さらには、日本火山学会会長、IAVCEI 執行役員や、JVGR 誌等の国際誌の編集者を務め、国際的な火山学コミュニティにおける日本の地位向上に寄与した。

以上のように、日本の火山学の発展に対し長年において特段の貢献があった篠原氏を 2022 年度日本火山学会賞授賞者に選定する。

#### ■日本火山学普及啓発賞（応募：なし）

■日本火山学会優秀学術賞（応募：なし）

■日本火山学会研究奨励賞 1件（応募：1件）

被推薦者： 松本恵子

被推薦者所属： 産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門

自薦／他薦： 他薦

推薦者： 篠原宏志、三輪学央、中村美千彦、下司信夫

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

火山噴出物組織の形成・分解過程に着目した噴火ダイナミクスの再構築

授賞理由：

松本氏の岩石の微細組織解析を主な手法とした研究成果は火山噴火現象の理解に大きく貢献している。また、熱履歴、酸化反応履歴を解析する研究手法も独自性が高い。これら手法を用いた火山噴火の時間推移の解明は火山学への重要な貢献であるとともに、噴火の現状把握や事後予測に関する情報の提供に資するものである。

以上のように、火山学に関する優れた論文を発表し、将来も火山学の発展への貢献が期待されることから、松本氏を2022年度日本火山学会研究奨励賞授賞者に選定する。

■日本火山学会論文賞 2件

・1件目

著者： Masahiro Ichiki, Toshiki Kaida, Takashi Nakayama, Satoshi Miura, Mare Yamamoto, Yuichi Morita & Makoto Uyeshima (2021)

論文名： Magma reservoir beneath Azumayama Volcano, NE Japan, as inferred from a three-dimensional electrical resistivity model explored by means of magnetotelluric method. Earth Planet Space, 73, 150, doi:10.1186/s40623-021-01451-y.

授賞理由：

吾妻山の3次元比抵抗構造解析によってマグマ供給系を可視化したことに加え、比抵抗値から地下の流体の体積分率の推定、さらには熱水流体の存在、地殻

変動源と比抵抗構造との位置関係の必然性を論じるなど、意欲的に考察を展開した。また、流体の割合をモニタリングすることで噴火の準備過程を把握できる可能性を示した点で、防災上も極めて重要な論文である。

以上のように、火山学に関する独創的で特に優れた本論文を発表した Ichiki et al. (2021) を 2022 年度日本火山学会論文賞授賞者に選定する。

・ 2 件目

著者： Akihiko Terada, Wataru Kanda, Yasuo Ogawa, Taishi Yamada, Mare Yamamoto, Takahiro Ohkura, Hiroshi Aoyama, Tomoki Tsutsui & Shin'ya Onizawa (2021)

論文名： The 2018 phreatic eruption at Mt. Motoshirane of Kusatsu-Shirane volcano, Japan: eruption and intrusion of hydrothermal fluid observed by a borehole tiltmeter network. Earth Planet Space, 73, 157, doi:10.1186/s40623-021-01475-4.

授賞理由：

傾斜変動の解析を基本としながら、地震発生場との比較、噴煙映像に基づく熱放出過程の解析との比較など、地下・地表面現象を対象とした多項目観測に基づき、2018 年本白根噴火の発生場をふまえた包括的モデルを提示した。傾斜データから地下で動いた熱水量を評価するとともに、気象レーダを使用して放出された熱水量の見積もりも行い、地下の熱水系の物質とエネルギー収支から現象を考察した新規性に富む論文である。

以上のように、火山学に関する独創的で特に優れた本論文を発表した Terada et al. (2021) を 2022 年度日本火山学会論文賞授賞者に選定する。

■ 日本火山学会学生優秀論文賞 1 件（応募：1 件）

被推薦者： 村松 弾

被推薦者所属： 九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻

（現所属：東京大学地震研究所）

自薦／他薦： 自薦

照会者： 相澤広記、松島 健、市原美恵

授賞対象となる研究課題名あるいは貢献活動名：

Dan Muramatsu, Mie Ichihara, Takeshi Matsushima, Osamu Kuwano, Yasuhisa Tajima (2022) Surface eruptive dynamics of 2018 small phreatic eruption

of Iwo-Yama volcano, Japan: Constraints from seismo-acoustic observation and mud suspension rheology. J. Volcanol. Geotherm. Res., 421, 107452, doi:10.1016/j.jvolgeores.2021.107452.

授賞理由：

本論文は、霧島山硫黄山の小規模水蒸気噴火のメカニズムを、火口近傍での空振・地震観測、及び映像記録に基づき解明した、独自性の高い研究成果である。得られた空振波形の特徴は噴出物のレオロジー特性の変化が支配するという仮説を実験結果も統合することで検証した点は独創的である。今後類似の噴火現象の観測やレオロジー理論によるモデリング、実験などを通して検証されるべき新たなフレームワークを示した。

以上のように、火山学に関する独創的で特に優れた論文を投稿時点において学生として筆頭執筆した村松氏を 2022 年度日本火山学会学生優秀論文賞授賞者に選定する。

## 別添資料 6 各賞選考委員会設置規定の修正

### 表彰に関わる規程の修正（案）

各賞選考委員会 高木

#### ○承認事項 規程の修正（案）

表彰に関わる、常設委員会設置規程（日本火山学会各賞選考委員会規程）、及び日本火山学会表彰規程を下記のとおり修正することを提案する。

#### ■常設委員会設置規程

特定非営利活動法人日本火山学会各賞選考委員会規程  
(修正前)

2. 各賞選考委員会は以下に関する任務を行なう。
  - ・特定非営利活動法人日本火山学会表彰規程に定める各賞の選考に関する事項

(修正後)

2. 各賞選考委員会は以下に関する任務を行なう。
  - ・特定非営利活動法人日本火山学会表彰規程に定める各賞の選考に関する事項・特定非営利活動法人日本火山学会以外の団体・個人が行う表彰に係る推薦の候補者の選考等に関する事項

#### <全文（下線部を追加）>

常設委員会設置規程

7. NPO 法人 日本火山学会各賞選考委員会規程

---

特定非営利活動法人日本火山学会各賞選考委員会規程

(2003年10月12日臨時総会報告, 2008年10月12日臨時総会報告, 2010年10月10日臨時総会報告, 2013年9月30日臨時総会報告, 2015年11月3日修正, 2016年5月24日修正, 2022年5月25日総会報告)

- 
1. 各賞選考委員会に関する運営はこの規程によるものとする.
  2. 各賞選考委員会は以下に関する任務を行なう。
    - ・特定非営利活動法人日本火山学会表彰規程に定める各賞の選考に関する事項.
    - ・特定非営利活動法人日本火山学会以外の団体・個人による表彰に係る推薦の候補者の選考等に関する事項.
  3. 各賞選考委員会委員は会員7名以上で構成される. 委員は選考委員が受賞対象の直接的な関係者となった場合には, 該当する賞の選考には関与しないものとする. 委員の任期は1年とし, 原則として連続2期までとする.

4. 各賞選考委員会は、日本火山学会学生優秀発表賞の選考に当たり、秋季大会参加者の中から選考委員を指名し、選考に関する意見を聴取することができる。

附則 1. この規程の変更は、理事会で承認する。